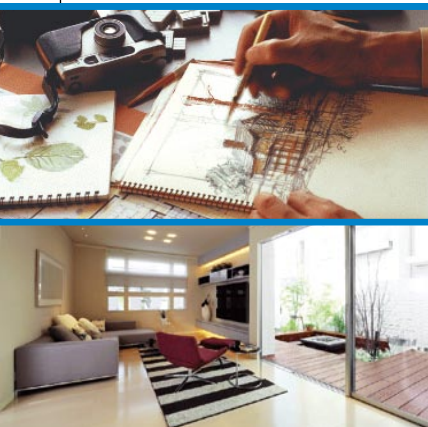


# メールサーバへの負荷増大に悩む大手住宅メーカーが選択したのはミラポイントの最新メッセージサーバとメールアーカイブサーバ。圧倒的なパフォーマンス強化と信頼性を証明

メールアカウント数の急増とメール流量の増大で、POPサーバの障害やアーカイブのキャパシティ超過に苦慮していた三井ホームは、2008年7月に老朽化したメールシステムを全面刷新。ミラポイントのメールサーバ「Mirapoint® Message Server 6000-SAN Edition」をN+1で冗長化構成するとともに、メールアーカイブ「Mirapoint® RazorSafe™ 370」を併せて採用し、POPサーバの性能向上とアーカイブの完全性を両立して次世代のメッセージング環境をいち早く構築した。

ユーザー事例 | 住宅メーカー



QUALITY X DESIGN



顧客名

三井ホーム株式会社

要求

- POPサーバの性能向上による送信停止の回避
- アーカイブサーバの性能向上
- 外部データセンター (iDC) に設置しやすいメールサーバ構成

ソリューション

「Mirapoint® Message Server 6000-SAN Edition」2台 (N+1 構成)  
「Mirapoint® RazorSafe™ 370」1台

導入効果

- POPサーバのパフォーマンス向上と安定性確保
- アーカイブサーバの操作性向上で管理が容易に
- アプライアンス製品により外部 iDC 設置でも安心

止められないメールは止まらない環境へ

三井ホームは、ツーバイフォー (2×4) 工法 (木造枠組壁構法) がオープン化された 1974 年に設立され、日本における 2×4 住宅の普及と技術の向上に多大な貢献をした先駆者として知られる。現在は、グループ企業 12 社とハウジングパートナー 10 社で構成するグループの総合力を背景に、顧客のこだわりをカスタムメイドで叶える高級グレードの注文住宅で差別化を図っている。

同社は、1994 年に Lotus Notes を導入。1999 年にインターネットメールの全社利用を開始。2002 年にはグループウェアからメールを分離し、商用 Sendmail を採用するとともに、インターネット VPN を整備してグループ全社にメールサービスを拡大していった。

2004 年から、情報漏洩対策に向けたメールアーカイブ、セキュリティゲートウェイ、スパム対策システムなどを次々と導入。2007 年時点でのメールユーザー数は 7,000 を数えるまでになっていた。

当時のメールシステムは、POP サーバ、SMTP サーバ、アーカイブサーバを自社のデータセンター (iDC) に配置し、外部の iDC にメールゲートウェイ、携帯 Web メール用サーバを備えるという構成をとっていた。

しかし、そこには 3 つの問題点があった。その 1 つは、高負荷時に POP サーバの応答が停止するという障害だ。営業や設計、工事の各担当者が CAD 図面や大量の資料をメールに添付し、多数の宛先に同報することで送信キューが増大すると、急なパフォーマンスの低下やシステム停止に陥ることが頻繁に発生した。

問題の 2 つ目は、アーカイブ取得量の増大による運用負荷。月平均のアーカイブ量がアーカイブサーバとテープのメディアサイズを超過するまでになり、圧縮処理が追いつかず、また従来のテープからメッセージログを抽出するコマンドベースの検索方法では、1 ヶ月分のメールの中から検索するにも半日を費やすほどだった。

「当時の単純なシステムではアーカイブの検索機能が使えなかったことが原因でした。時間をかけずにメールの内容が把握できないと、アーカイブ本来の目的を失ってしまうことになっていきます」と語るのは、同社の経営企画統括本部でシステムグループのチーフマネジャーを務める高橋敏介氏。アーカイブの目的は達していたが、探すための仕組みを早急に検討しなければならなかったと振り返る。

そして 3 つ目は、自社 iDC 環境の問題。月～土の午前 9 時～午後 6 時以外は無人と

伊藤忠テクノソリューションズグループ  
CTC SP





三井ホーム株式会社  
経営企画統括本部  
システムグループ長  
篠山達夫氏

なるため、障害が発生した場合に問題になるほか、年1回の法定点検で全館停電する日があり、業務に少なからず影響を与えていた。もはやメールシステムは止められないインフラとなった以上、24時間365日止まらない外部のiDCに設置すべきという意見が多くなっていた。

### 外部iDC設置に最適なアプライアンス

そこで同社は、現状のメール環境の大幅な刷新を決断。メールサーバは従来の商用Sendmailに代えて「Mirapoint Message Server 6000-SAN Edition」(S6000)を採用した。POP性能に関してはミラポイントのアプライアンス/専用OS構成によるパフォーマンスチューニングが信頼でき、外部iDCへの設置でも手間がかからず最適。HA(冗長化)構成やシステムのバックアップ・リストア、VTL(Virtual Tape Library)の利用が可能で、パッチ適用やOS更新の適用可否判定も容易である点が高く評価された。また、「Single copy Message」機能も



三井ホーム株式会社  
経営企画統括本部  
チーフマネジャー  
高橋敏介氏

同報したメールを1つのメールとして保存できるのでアーカイブ容量が圧縮できると期待された。

一方、アーカイブサーバは「Mirapoint® RazorSafe™ 370」の他に、フィルタリング製品とパケットキャプチャ製品を5製品ほど選定して検証。RazorSafeはPOP/IMAPでデータを取得する方式のため安定した運用が可能であり、比較的安価で、POP/IMAPサーバに通信できる場所なら設置場所を問わない点などが決め手となった。

フィルタリング製品は監査用として特殊な検索機能が豊富だが、アカウント数に応じたライセンス体系で割高感があったり、パケットキャプチャ製品も流量が増えると取りこぼしが出る可能性があるなど、アーカイブにおける完全性に疑問があったため、共に採用には至らなかったという。

そして2008年7月以降の最新メールシステムは、POP/SMTPサーバにS6000を2台使用するN+1の冗長化構成とし、バックアップサーバ+VTLとともに24時間365日有人対応が可能な外部iDCに設置。アーカイブサーバは、RazorSafe + TL (Tape Library) という構成で自社iDCに分散設置することで、BC/DR(事業継続/災害復旧)やフェイルセーフにも対応できるようにした。

突然、メールをリカバリする必要が生じても、自社内で対処できるのでコストも抑えられ、RazorSafeの検索機能を活用すれば極めて短時間に目的のメールを検索することも可能になる。

### 管理に手間をかけずに信頼性を向上

「Sendmail時代のPOPサーバの課題が、S6000の導入によって大きく改善されました」と話すのは、同社の経営企画統括本部システムグループに所属する山我真之氏だ。山我氏はかねてより製品としての完成度と信頼性でミラポイントに注目し、今回の更新を期に導入に踏み切ったという。

「従来は、送信キューが蓄積すると急速にパフォーマンスが低下する現象が連鎖的に発生していましたが、S6000になってから相当数のキューが溜まっても問題なく稼働し続けるほどパフォーマンスが強化されたのには驚きました」と述べる山我氏は、

アーカイブサーバもGUIによる集中管理によって現状把握がしやすくなったことを認める。

また、経営企画統括本部のシステムグループ長を務め、今回のメールシステム改革の陣頭指揮を執ってきた篠山達夫氏は、管理運用面での効率は格段に向上するだろうと予測する。「手間をかけずに信頼性を向上させるという、相反した効果が期待できそうです。今回は管理者メリットを優先しましたが、今後はミラポイントの実力をフルに引き出して、ユーザーの利便性や効率性などのメリットも実現させたいと考えています」(篠山氏)



三井ホーム株式会社  
経営企画統括本部  
システムグループ  
山我真之氏

さらに篠山氏は、ミラポイントの国内パートナーである

CTCSPの高い経験値に期待し、今後も協力して運用の安定化と管理負荷の低減を目指すという。外部iDCを含めたWAN環境のネットワークインフラの冗長化や、Webメールの利用を可能にすることもなども検討中だ。

2009年に35周年を迎える同社は、より信頼性のあるメールサービスでグループ全体の統合力を強化し、新たなステップを踏み出そうとしている。

POPサーバ製品比較

	POP性能	HA構成	システムバックアップ	パッチ適用OS更新	LADP連携
Mirapoint	○	◎	◎※2	◎	○
商用Sendmail※1	○	△※3	○※4	○	○

※1 RH Linux+商用Sendmail ※2 ソフトウェアはNetVault. 保管先はVTL装置  
※3 HAソフトウェアとクラスター対応ハードウェアによる冗長化  
※4 ソフトウェアはNetVault. 保管先はテープ

アーカイブサーバ製品比較

	完全性	検索性能	コスト	設置場所の自由度
Mirapoint RazorSafe	○	○	○	◎
フィルタリング製品	○	◎	△	△
パケットキャプチャ製品	△	○	○	△

三井ホームの新メールシステム構成

